

『図解鍼灸療法技術ガイド I, II』

正誤表

本書におきまして、下記の通り記載内容に誤りがございました。訂正してお詫びいたします。

I [第1・2刷]

p46 左段 3行目

[誤] 直視 → [正] 直刺

p170 右段 9行目

[誤] haemodynamic model → [正] hemodynamic model

p277 エッセンス 4行目

[誤] 耳下腺 → [正] 舌下腺

p280 右段 下から 4行目, 6行目, p281 左段 5行目, 7行目

[誤] 茎乳突起 → [正] 茎状突起

p290 図1 図説 2行目～3行目

[誤] なお、第2頸神経は第2頸椎の下から、第3頸神経は第3頸椎の下から、第4頸神経は第4頸椎の下からである。

↓

[正] なお、第2頸神経は第1頸椎の下から、第3頸神経は第2頸椎の下から、第4頸神経は第3頸椎の下からである。

p345 図2 図のC点の上にあるE点

[誤] (E) → (F)

p359 右段 1行目

[誤] 四浣 → [正] 四瀆

p371 右段 3行目, メモ 1行目, 3行目

[誤] 鍼先 → [正] 針先

p455 右段 6行目

[誤] 筋腿 → [正] 筋腱

p462 左段 下から2行目～3行目

[誤] 停止腱 (C点) を触察する。停止腱を確認したら AC線に沿って長頭

↓

[正] 停止腱 (B点・C点) を触察する。停止腱を確認したら AC線, AB線に沿って両筋

p463 左段 下から2行目

[誤] 半膜様筋, 半腱様筋腱を → [正] 半膜様筋腱, 半腱様筋腱を

p470 左段 9行目

[誤] 内転筋の筋腹 → [正] 長内転筋の筋腹

p484 左段の下から7行目, 図3の図説3行目

[誤] 解谿穴 → [正] 解渓穴

p592 気逆スコア 一番下の段

[誤] 手掌・足蹠 → [正] 手掌・足蹠の発汗

p658 右段 4行目～7行目

[誤] ③攻補兼施 (正気の衰えがそれ程強くない場合か, 邪気が強くて虛弱した正気が耐えられない場合か, 邪気が強いために早く祛邪する必要がある場合)

↓

[正] ③攻補兼施 (祛邪と扶正を同時にを行うもので, 正気の衰えがそれ程強くない場合か, 邪気が強くて虛弱した正気が耐えられない場合に用いる原則)

p665 左段 11行目

[誤] 手の厥陰肺経 → [正] 手の太陰肺経

p710 表2 アドソンテスト テストの方法

[誤] 深呼気のところで → [正] 深吸気のところで

p716 左段 2行目

[誤] 患側の肩 → [正] 健側の肩

p768 図 1c.

[誤] 片峰下 → [正] 肩峰下

p897 図 3

[誤] groupIIa → [正] groupII

p909 左段 下から 13 行目

[誤] 恢刺 (かいし) → [正] 恢刺 (かいし)

II [第1・2刷]

p94 表 2 主な病態の 1 行目, 4 行目

[誤] 椎管狭小化 → [正] 椎間狭小化

[誤] 腕神経 → [正] 腕神經叢

p447 表 1

[誤] 24.2 以上で「過体重」, 26.4 以上で「肥満」 → [正] 25 以上で「肥満」

p837 図 4 運動区の上点

[誤] 前後正中線より後方へ 0.5cm → [正] 前後正中線の中点より後方へ 0.5cm

p847 図 5 図説 3 行目

[誤] 中点より 0.5cm のところ → [正] 中点より後方 0.5cm のところ

p855 右段 下から 6 行目, p856 図 2 図説 4 行目

[誤] グルコース代謝 → [正] 酸素消費量

I [第1・2・3刷]

p. 100 右段 下から 2 行目

[誤] 急性腹証（腸捻転・腸重積等）等での引きつけは適応症ではあるが、
脳炎や自家中毒による引きつけ、痙攣は禁忌症である。

↓

[正] 急性腹症等や脳炎や自家中毒による引きつけ、痙攣は禁忌症である。

p. 426 右段 下から 4 行目・2 行目

[誤] 18号 [誤] 中殿筋

↓

↓

[正] 20号 [正] 大殿筋

I [第1~6刷]

p866 左段 7 行目

[誤] 内反变形 (X 脚) → [正] 内反变形 (O 脚)

p866 左段 8 行目

[誤] 外反变形 (O 脚) → [正] 外反变形 (X 脚)